

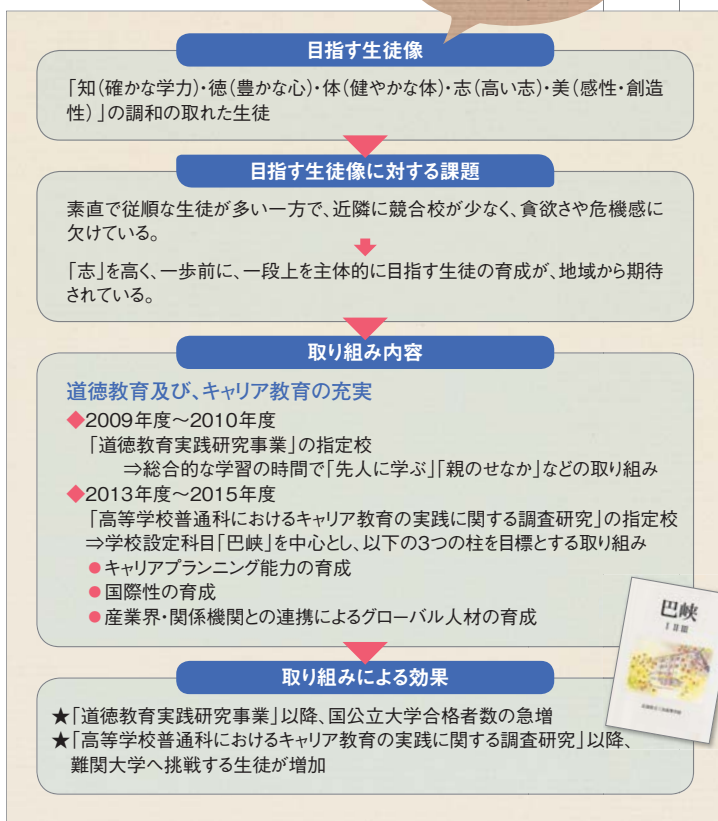
三次高校  
(広島・県立)

道徳教育と進路指導の両輪による

体系的なキャリア教育で

一歩上を目指す志の高い生徒を育てる

三次高校  
の取り組み



道徳教育と進学率アップを  
同時に行う取り組み

創立117年の歴史をもつ広島県立三次高校。県北の雄と位置づけられているものの、進学率・質ともに低下していた時期があり、地域から「三高が昔のような進学校に戻ってほしい」という声が高かった。近隣にライバル校が少なく、生徒に危機感や貪欲さが欠けていたため、学校が目指す生徒像「『知徳体志美』の調和」の中で、「志」をどう高めるかが課題となっていた。

それがここ数年で、生徒の志が高まり、進学率は数・質とも急上昇している。

「以前は合格できる大学を選択していた生徒たちが多かったのが、浪しても難関校を目指し、合格する生徒が増えてきました(森嶋校長)」

その最初のきっかけが、2009年に県の「道徳教育実践研究事業」の指定校に採択されたことだ。道徳教育がなぜ進学率に結びついたのだろう。

「我々は『進学率を上げながら生徒の徳も育てる』ことを目指しました。もともと当校の生徒は素直できちんと挨拶

もできる生徒。服装や髪型などの基本を見直すことはもちろんでしたが、生徒の良さを失わずに進学率を上げることが道徳教育と結びつけたのです(溝口先生)

具体的には、授業に自学や演習の時間を組み込んで自ら学ぶ姿勢を高める一方、家庭学習を生徒指導として行った。「家庭学習は通常、進路指導の範疇ですが、まずは『教科書はもちろん学習道具を全部家に持って帰れ』と生徒指導を行いました(溝口先生)」

また、総合的な学習の時間(以下「総学」)では、学校独自で2冊の教材を作成して指導を行った。ひとつは三次出身の偉人や地域の歴史についてまとめた『先人に学ぶ』、もうひとつは保護者たちが自らの職業について書いた文章をまとめた『親のせなか』だ。身近な先人や大人の人生観に触れることで、生徒たちが生き方を考えるきっかけとなった。

生徒の成長に保護者の力を  
資源として最大限に活用

同校の生徒の成長をさらに加速させているのが、2013年度から文部科学

省の「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」の指定を受けての取り組みだ。初年度の13年はカリキュラム策定の計画年とし、14年と15年で、学校設定科目「巴峽」と総学、LHRの3時間を使ってさまざまなプログラムを実践している(図1)。

そのひとつが、道徳教育で取り組んできた『先人に学ぶ』と『親のせなか』の活用だ。この2冊は、大学の先の将来を生徒に考えさせるキャリア教育としての効果もあった。特に『親のせなか』は、今学んでいる勉強が職業にどうつながっているかを深く理解することに役立つ。

「当校には生徒や学校の成長に協力的な保護者が多くいます。『巴峽』のプログラムは当校の16名の教員から成る『巴峽プロジェクト委員会』が研究開発しましたが、そこに、10名の外部の方の運営指導委員会も参加していただき、PTA役員も入っています。また、今年の交換留学で台湾の姉妹校から60名以上の生徒が来校した際、30軒の家庭が2名ずつのホームステイを受けて入れてくださいました(森嶋校長)」

台湾の姉妹校へは修学旅行で訪問しており、その時の子どもの変化と成長を実感していた保護者が受け入れに名乗

学校data  
1898年創立/普通科(全日制)/生徒数652人(男子279人・女子373人)/進路状況(2014年度実績)大学146人・短大9人・専修その他48人・就職12人・その他8人  
★平成21年度～22年度「道徳教育実践研究事業(文部科学省委嘱)」指定校  
★文部科学省「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」平成25年度指定校(3年間)



巴峽プロジェクト委員会の先生方



主幹教諭  
溝口 徹先生



校長  
森嶋 勝也先生

図1 三次高校のキャリア教育授業の主な取り組み (2015年度計画)

	1学年		2学年		3学年	
	学校設定科目「巴峽」	総合的な学習の時間、LHRなど	学校設定科目「巴峽」	総合的な学習の時間、LHRなど	学校設定科目「巴峽」	総合的な学習の時間、LHRなど
4月	巴峽ガイダンス キャリアアンケート 社会人講話	適職・ 適学ナビ	巴峽ガイダンス キャリアアンケート 社会人講話	学部・学科研究	面接週間 進路希望調査	進路計画
5月	台湾新竹校来校に向けての グローバルスタディ 「親のせなか」活用	職業研究	台湾新竹校来校に向けての グローバルスタディ 「親のせなか」活用	志望校研究	個別面接	志望理由書・ 自己推薦書を書く
6月	学部・学科調べ	科目選択について	ライフプラン作成	大学説明会	課題研究	進路実現に向けての 実践
7月	広島大学出張講座 オープンキャンパス 事前学習	短歌制作	ライフプラン発表会 三者懇談	レポートを書く 中高大連携公開講座	三者懇談 課題研究	検定・コンクールへの 作品応募
8月	広島大学オープン キャンパス参加	進路計画を たてる	オープンキャンパス参加 ディベート①	短歌制作	小論文 課題研究	検定・コンクールへの 作品応募
9月	オープンキャンパス レポート作成 近未来発見活動、プレゼン	将来設計	キャリアノート記入	オープンキャンパス レポート作成	キャリアノート記入 課題研究学習発表会	進路先の研究及び 自己表現の方法 文化祭「販売体験」
10月	近未来発見活動 プレゼン	「先人に学ぶ」	第2外国語講座	コミュニケーション 能力の育成	面接週間	進路先の研究及び 自己表現の方法 「先人に学ぶ」
11月	キャリアノート記入	小論文を書く	ディベート②	「先人に学ぶ」	自己アピール練習 「親のせなか」	進路先の研究及び 自己表現の方法 教育講演会
12月	三者懇談 近未来発見活動中間発表	コミュニケーション 能力の育成	ディベート③	小論文を書く	三者懇談	卒業論文の制作
1月	近未来発見活動、プレゼン	小論文テスト	ディベート④	小論文テスト	三者懇談	卒業論文の制作
2月	近未来発見活動発表会 振り返り	面接週間	ディベート大会	志望理由を書く	キャリアノート記入	
3月	一年間の振り返り	小論文講演会	ディベート振り返り	小論文講演会		



地域の偉人をテーマにした「先人に学ぶ」と、保護者の職業について書いてもらった「親のせなか」

道徳教育



「巴峽」では、米国からも高校生を招き、  
「勉強と進路の接続を意識し  
評価によって自信を得る」

りを上げた。1度引き受けた保護者は次回も希望しているという。受け入れ経験により、生徒も保護者も家庭全体で志が高くなくなったと溝口先生は評価している。

自校の生徒も海外インターンシップで渡米、第2外国語講座など、さまざまな国際交流に力を入れている。「海外の優秀な生徒たちからよい刺激を受け、『自分ももっと英語が話せるようになりたい』とか『今度は自分が目的を持つてその国に行ってみよう』など、学ぶ動機をみつけて進学を考えるように

になりました(溝口先生)  
多様な人々との交流で視野を広げて、キャリアを設計するだけでなく、夢を叶えるためのスキルを身につけさせるプレゼンテーションやディベートの授業も行っている。また、2学年では自分が将来やりたい職業に就くまでのライフプランを作成し、発表会を行っている。

「プレゼンやライフプランの発表では、生徒相互に評価させています。自由記述欄は強制でないのに、ほとんどの生徒が特に良かった点を書いていきます。評価する生徒の成長に繋がると同時に、他の生徒全員から評価を受け取ることで、この上なく自己肯定感と自尊心が高まっているように感じます(溝口先生)」

キャリアプランニング能力の育成



プレゼンテーションのノウハウを授業で学び、自分の意見を発表するスピーチコンテストを1学年で実施



2学年で作成するライフプランは、ポスターセッション方式で発表。クラス代表による発表会も実施



論理的な思考とコミュニケーション力で議論ができるよう、ディベートの授業を行い、校内ディベート大会、他校との公開ディベート対戦も行う

国際性の育成



姉妹校である台湾新竹高級中学の生徒が来校。ともに授業を受けることで刺激をうける



フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語など、ネイティブの講師を招いての第2外国語講座

希望者から選抜された10名が、米国の高校へ海外インターンシップに訪れる(写真は昨年度)



Editor's Eye

「点」から「面」へ波及する自己肯定感

多岐にわたる同校の取り組みに一貫してみられるのが、繰り返しから来る自己肯定感の高まりだ。発表活動では生徒同士の評価を繰り返すことで自信をつけさせ、外部からの評価は生徒に何度も伝えている。そして、海外の生徒から受けた刺激で学ぶ意欲が高まり、難関校に進学した先輩を見て「自分にもできるかもしれない」と自信を持ち始めている。一歩踏み出した努力を評価される繰り返しによって、個人という「点」で高まった自己肯定感が横へと「面」で波及していくようだ。

「生徒には常に『誇りをもて』と伝えています。外部の方からの褒め言葉を繰り返し伝えたいです。今後『巴峽』での取り組みは、総学と教科に落とし込む予定です。自分の将来を設計する力は、自己肯定感なくしては養えません。総学で得る知見から教科で『なぜこれを学ぶのか』を意識させ、能動的、探究的に学びたくなる姿勢を身につけることで、さらに自己肯定感を醸成できればと考えています(森嶋校長)」